

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2ページ 模型飛行への熱き思い…… 吉岡英武
3ページ 視聴者の自覚 …………… 鈴木和夫

アメリカでのエピソード…… 斎藤きく子
我が家の畑 …………… 伊藤由紀子

佐倉市民カレッジと私

越 川 道 子

「きつと何かできますよ！」
入学式で隣の方と交わした言葉。あれから一年、はたして何かができるのでしょうか？

何かを始めよう！そう思った時、偶然手にした一枚の紙。それはカレッジの入学案内でした。元来学ぶことが大好き、好奇心旺盛な私。今どきの高齢者ってどんなだろう？すぐに興味を抱き、ワクワクしながら夫に相談しました。
「なぜ、今？」夫がビックリ仰天したのは言うまでもありません。しかし、「学ぶことが大好きなの。私の病気だから諦めて」と半ば強引に了解をもらい、最年少という若さで入学しました。
カレッジでまず一番驚いたこと。それは「若さ」。皆年齢を偽っているのではないかと思うほどの若々しさ。

そして、数々のイベントを体験していく中で感じたことは、若い世代に負けないほどの大きなパワー。例えば、大運動会：クラスごとの趣向を凝らした応援合戦。文化祭：この年代ならではの創作舞台。今までに培ってきたそれぞれの方の、知識、能力、行動力。ークラス五十人いれば、大抵のことは成し遂げられるのではないかしら…と思えます。まさに先人の知恵の大集合。これだけの、人としての財産をこのままにしたら、も

つたいない「まだまだ現役」そう感じているのは私だけ？人間には五段階の発達過程がある、と説いたのはマズローでした。生理的な欲求、安全の欲求、承認の欲求など、それらの欲求の満たされた先に自己実現があると。では、高齢者にとっての自

己実現とは何でしょうか？持っている能力を開花させ、自分を表現して生きることって？

私がカレッジで得られるものは何なのかと考えると、それはまさに一人一人の生きざま（自己実現）を感じることであり、どう生きたら良いのかという未来の自分を重ね合わせるの学びなのではないかと思えるのです。

このような貴重な時間を与えられたことに感謝。若さゆえの未熟な考えにバランスを与えてもらえることに感謝。親子ほどの年の差にもかかわらず、暖かく受け入れてもらえることに感謝。

「何かできる」「私に何ができる？」満ち足りた人生を歩むことを願い、いつも自分自身に言い聞かせ、問いかけている言葉です。「あなたは何かできますか？」「あなたを応援しています」

(編集委員)

模型飛行への熱き思い

私の生れた頃は世界恐慌のさなかで、幼い時ですからその時のことを思い出すすべはありませんが、幸いなことに模型飛行機熱最盛期の頃に少年期を過しました。五歳の時におもちゃ屋で羽撃き機はばたに出合ったことが始まりでした。本物の鳥のようにパタパタと羽撃いて飛ぶさまは私の小さな胸をゆすぶりました。手から放れた時は力強く三メートルほど上昇しあとは残りのゴムの力でパタパタ…パタパタと優雅に旋回するのです。大人だってノケゾツテ喜ぶのではないのでしょうか。

あれから七十数年後の今もその夢を追いかけて作り続けていますが…。羽撃き機が模型飛行機のすべてではありません。Aクラス（一本胴のゴム動力機）から始まりBCDJHクラス、ガソリンエンジン、電動機、Uコン、ラヂ

コン、エトセトラ、やみくもに兎に角飛ぶものにはすべて手を出しましたが、釣師が鮎あゆに始まり鮎にもどるとかのたとえどおり、ふと立ちどまつて原点にもどることにしました。

体力の衰えもありますが、鳥の如く、蝶の如く空を駆ける姿に目覚めるのは当然だと思えます。手作りの羽撃き機は十数機ありますが、残念ながら思うように飛んでくれません。試行錯誤、未だに満足していません。人生の終末を迎えるまでには、なんとかしなくちゃ、と思いついて毎日馬鹿ですネ。

（井野 吉岡英武）



アメリカでの

エピソード

今を遡る何年も前、私はサンフランシスコへ向かった。ロス・アンジェルスの待ち合いロビーで大きな男性が、ビール瓶箱より大きめの箱に乗って、必死の形相で何やら叫んでいる。良く聞くと何やら「オーバーブックング」につき、次便可能者には ドルの報償金を出すので申し出てほしいということらしい。私は個人旅行。すでに現地にホテルは予約済み。置いていかれたらたまらない。幸い有志の方たちが名乗り出て一件落着。

アメリカでは、考えようによつては、ビジネスはビジネスなのだ。こういう場では実にすばやく対応してくれる。のちに英検一級問題に、当時の事例が出ていて驚いた。ということが、ああいうことが頻繁にありえるということなのでしょう。

ロスではビバリーヒルズにある予約済みの割と高級なRホテルに泊った。

好奇心丸出しで出掛けた「ヒルズバスツアー」では運転手兼ガイド男性が、とある家の前で「門が開いているが、飛行機事故で亡くなったレック・バトラーク・ゲイブルがいつでも帰ってこれるよう奥さんが開けているんだ」の語りを思い出す。

居心地が良かったので、滞在を三日延長した。しかし、室内には、TVの故障、風呂栓なくお湯はたまらない、など。

帰国時の精算の際、金髪美人カウンセラーが「精算済みですよ」そしてもう一度、繰り返して、にっこりほえんだ。それは室内不備、または、訴訟回避のための代償なのか私はそのままにしたが、未だにその真偽のほどはわからない。

（中志津 斎藤きく子）

視聴者の自覚

「納豆で減量」の番組捏造の話題がマスコミに大きく取り上げられた。捏造した番組制作者やテレビ局が非難されるのは当然だが、放送内容を鵜呑みにして一日二、三回納豆を食べる視聴者にも反省すべき点があるのでは…と健康関連番組で一喜一憂している私は頭を抱えている。

健康で長生きしたいという願いが強くなる年齢に至ると、健康関連番組を見るとすぐ飛びつきたくなり、冷静な判断ができなくなる。この点が放送局側にとって視聴率を上げる有効な要因になっている。納豆減量効果を数値で示されると信じてしまう。だが実験前後の体重差が真に納豆によるものか。人は種々の影響により体重は常にある幅で変動している。実験後の減量の平均値と実験前の体重の変動幅の平均値との比較差が、実

験参加者数を考えた、統計学的な有意差があると証明できる値なのかどうかである。実験条件を一定に維持できることの難しい今回のような実験では、統計学的説明が必要で、これが不足している。

得られた結果や比較の方法など、一歩踏み込んだ合理的判断が視聴者にも必要になっているようだ。

定期健康診断の測定値が要精密検査域に近づいている私にとつて、体重減は現在の重要課題である。が、努力しても現状維持が精一杯である。

「摂取エネルギーを消費エネルギーより少なくすれば体重は減る」との原則は頭では理解できるが、継続的に実行するには厳しい努力が必要で容易な方法ではない。私の経験からも十分わかっていいる。いい加減な情報を選別できる能力を高めたものだ。

(山王 鈴木和夫)

我が家の畑

還暦をすぎてから、思い切つてささやかな土地付き一戸建住宅を購入。良かったが悪かったか猫のひたいほどの庭がついていた。しかし夫婦共に庭には執着がなくてどちらかと言えばありがた迷惑といった心境だった。その空いている土地が勿体ないというだけでじゃがいもを植えてみたのが我が家の畑のはじまりである。そのいい加減さが良かったか粘土質の上に石がゴロゴロ出て来る荒地をじゃがいも君、気にいったのか思いがけず収穫の楽しさを味わわせてもらった。嬉しくて友達やご近所の方におすそ分けしたものだ。

はずみで昨夏はなすとピーマンを二本ずつ植えて、新鮮で安心な野菜を庭で毎朝収穫出来るという最高のぜいたくも味わった。その後、宣伝した友達からの指導よろしく、

あまり手がかからないというにんにくとらつきようを植えた。「ほうれん草は虫があまりつかないから二段階位に分けて蒔いておくといいよ」との彼女のアドバイスでそれも蒔いた。虫の苦手な私に配慮してのことなのだが彼女はそう言つて笑つた。「うん、ありがとう」と言いながら虫がつかないという所に納得して私も笑つてしまつた。この冬は暖冬とのことで、ほうれん草にとつてこれもまた良いのか悪いのかまばらながら芽が出て少しずつ成長している。

今年は野菜が割りと安値で出回っているが、我が家の庭で採れたほうれん草が食卓にぎわしてくれる日が待ち遠しい。

(中志津 伊藤由紀子)



5月の黒板

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

【原稿規定】 字数 650字（13字×50行）以内。ワープロによる原稿（縦書き）でも結構です。

内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館（第2・第4月曜日は休館日です）

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

わくろ道

一時期ビーグルの牝犬「ココ」を飼っていた。昨今、犬も長寿になり要介護の犬が増えていると聞く。最後には目も見えなくなり徘徊やおもらしをしたりして、飼主も大変だが犬自身も可哀相である。ココの散歩コースの一つである生谷コースに「ぼっくり弁天」があり、時折要介護にならぬよう、ぼっくりと逝く

ようにお参りをしていた。某日、前日まで元気に散歩していたココがヨロヨロと立てなくなつた。獣医に連れていくと、極度の貧血で危いとのこと。リビングで我々の横で寝かせていると、本当に眠るがごとくぼっくりと逝つた。「ぼっくり弁天」の霊験だと、今の所、家内と散歩でその弁天の横を通つても、素通りしている。が、その内ココにあやかるべく一緒に参りしようとして話合っている。

あがとき



編集委員の第一の関心事は、多くの方々に親しまれ、興味を持つて読んで頂ける『なかま』とすることです。次が、より多くの新しい方々からどしどし原稿が送られてくることです。それを同時に両方満たす方策の一提案ですが、『なかま』の記事を読まれて、それに触発され、そこからヒントやき

っかけを掴んで、題材を決め、自分にはこんな思い出がありましたとか、あの記事に関連して、私はこんな考えや見方をしていますとかを記事にして、投稿いただければ、苦労して題材を考える手間も省け、他方、編集委員としては、原稿が集るだけでなく、皆さんがどんな記事に関心をお持ちかがわかり、両方共にハッピーなことになります。一度トライしてみてください。

（服部）